

4 令和3年度第1回 資質向上協議会御意見の対応状況について

資料 4

項目	要望等の概要	対応状況
愛知の教員育成（案） 6つの教師像	<p>p. 3 「愛知が求める教師像」という表現は、求める主体が教育委員会なのか、それとももっと漠然とした愛知全体のようなものであるのか、そのあたりが少し曖昧な印象を受けます。おそらく「愛知県で理想とする教育ビジョンを実現するために教育委員会が求める教師像」という意味だと思いますので、たとえば、タイトル「1 愛知が求める教師像」は単に「求める教師像」として、続く文章「愛知県教育委員会においては～」は、「愛知県教育委員会は、『あいちの教育』を展開するうえで求められる教師像として～」とするなど、より正確に伝わる表現を検討されても良いのではないかと思います。</p> <p>同頁「愛知が求める教師像として、以下の6つの教師像を従来から定めて～」という文章は「教師像」という言葉が重複しているので、「愛知が求める教師像として、以下の6つを従来から定めて～」とされたほうが良いのではないのでしょうか。</p> <p>6つの教師像の4つめの文中に「素早い対応ができる瞬発力」という文言がありますが、「瞬発力」という言葉はフィジカル面を想像させます。「咄嗟力」など、別の表現を検討されても良いと思います。</p> <p>p. 3 下部の「お預かりしています」という表現について、旧の「預かっています」という表現から修正された理由や意図はわかりませんが、必要以上に丁寧な表現でなくても良いのではないのでしょうか。子どもを大切に預かることはその通りですが、「児童生徒はお客様」のような、まるで教職がサービス業のようなイメージを与えてしまうのは、良くないのではと考えます。</p>	<p>「愛知が求める教師像」は「あいちの教育ビジョン 2025-第四次愛知県教育振興基本計画-」を受けたものであり、変更しない。</p> <p>「愛知が求める教師像として、以下の6つの教師像を」を、「『あいちの教育』を展開するうえで求められる教師像として」とする。</p> <p>P 4 「(4)実行力に富み、粘り強さがある人」を、「教師には、行動力や機動力が求められます。絶えず、現状の課題や改善策を考え、工夫し、実行していく力が必要です。また、急なトラブルや変更にも臨機応変に対応できる柔軟さや瞬発力なども重要です。一方、様々な問題を抱える児童生徒に寄り添い指導・支援するために粘り強く当該児童生徒や保護者と向きう根気強さ、忍耐力、信念が大切です。」とする。</p> <p>「お預かりして」を「預かって」とする。</p>
愛知の教員育成（案） 育成に関する基本的な考え方	<p>新旧対照表の p. 5 「2 育成に関する基本的な考え方」は、各段階に応じて示されていることから、「育成の各段階における基本的な考え方」等でも良いと思います。</p>	<p>「育成に関する」を、「育成の各段階における」とする。</p>
愛知の教員育成（案） 表現等	<p>あくまで個人的な見解ですが、必要以上に丁寧な表現を使わなくても良いのではないのでしょうか。たとえば、「～おります」→「～います」、「～いたしました」→「～しました」など。「一層」「いっそう」など、2つの表記が混在している言葉が見られますので、全般的に確認が必要だと思います。</p> <p>どのような意図のもとで「あいち」と「愛知」が使い分けられているのか（『あいちの教育ビジョン』など、名称として定められているものは別として）気になりました。</p>	<p>「おります」「まいります」を、「います」「いきます」とする。</p> <p>「一層」は「いっそう」に統一する。</p> <p>「あいちの教育ビジョン 2025」「愛知・つながりプラン 2023」「愛知県教育委員会」等、これまで使われている文言を基に使い分けている。</p>
愛知の教員育成（案） 表現等	<p>同じ職場で働いている人を「同僚」と表現しているが、地位の同じ人と限定される場合もあるのではないかと。「組織の仲間」などではいかがか。</p> <p>「フットワークのよさ」という表現は、障害者雇用の取組の観点から「機動力」とした方が良いのではないかと。</p> <p>「これからのあいちや日本、世界を担っていく」の「あいち」は、日本、世界と同列に表記する場合には「愛知」の方が適切ではないかと。</p>	<p>「同僚」を「他の教職員」とする。</p> <p>「フットワーク」を、「機動力」とする。</p> <p>「あいちや日本、世界を担っていく」は、「あいちの教育ビジョン 2025」から引用している。</p>

4 令和3年度第1回 資質向上協議会御意見の対応状況について

資料 4

<p>愛知の教員育成（案） 表現等</p>	<p>第2 6行目「英語教育」→「外国語教育」ではないか。 第2 最後から6行前 「教員として常に学び続ける姿勢を奨励する」→「教員として常に学び続けるための」 第3 枠内基本理念 改行の位置 第4 1（2） 「将来を担う児童生徒の成長を請け負う使命感や責任感を自覚し、情熱をもって児童生徒の教育に当たることが期待されます。」→「使命感や責任感を自覚し（又はもち）、信念をもって将来を担う児童生徒の教育に当たることが期待されます。」 この文に関しては「請け負う」という言い方が気になりましたが、うまく言い表せませんでした。また、（4）実行力に富み、粘り強さがある人の中の「瞬発力、信念、行動力」の「信念」という文言がこの箇所が必要かと考えた時、なくてもよいと思います。ここを削除する代わりに（2）「情熱」を「信念」にしてみました。 第4 1（5）「学ぶ安心感」→「安心感」 第4 1（6）「スタッフ」→「職員？」「チームで課題解決に当たるためにも」ここは削除してもよいのではないかと思います。</p>	<p>「英語教育」を「外国語教育」とする。 「常に学び続ける姿勢」は、変更しない。 「本県で育成する人材」の基本理念の改行については、一般の方も理解しやすいように、詰める形とする。 「請け負う」「情熱」は、教員育成指標の「素養」の文言を引用しているため変更なし。 「学ぶ安心感」の「学ぶ」を削除する。 「スタッフ」を「教職員」とし、「チームで課題解決に当たるためにも」は削除する。</p>
<p>教員育成指標の見直しについて</p>	<p>「あいちの教育ビジョン2025」を踏まえた見直しであり、より広い課題意識のもとでよい指標になったと感じます。 移転する予定の愛知県総合教育センターにおける教員研修が充実するよう施設・職員等の充実を望みます。</p>	<p>検討していく。</p>
<p>教員育成指標に関連して</p>	<p>指標や目標設定の必要性は理解できますが、その一方で、教員の多様性についても配慮していただきたいと考えます。個々の教員が理想とするキャリアアップの形やスピードは様々だと思われます。決して型やレールにはめるのではなく、あくまで指標を参考としつつも、教員個々の理念や考え方を尊重できるような柔軟な目標設定や研修の在り方が大事だと思います。組織である以上、統一的な方向性は不可欠ですが、同時に“教員側にも”個別最適化される部分があって良いと思います。</p>	<p>高度専門職業人として教職キャリア全体を俯瞰しつつ、教員がキャリアステージに応じて身に付けるべき資質や能力の明確化のための羅針盤であることを踏まえ、検討していく。</p>
<p>教員育成指標改正案について</p>	<p>2（1）①【あいちを創る】も削除されています。・2（2）着任時の姿について○【指導力：生徒指導】栄養教諭・養護教諭の部分を教諭と同じ文言に修正する。 2（3）ICT教育にかかわる内容について○教諭【指導力：学習指導】[第2ステージ] ICTも活用しながら→ICTを活用しながら がよいと思います。同様に養護教諭の第1・第3ステージでも言えます。「も」だと、今まで通りの指導にICTも活用しながらという思いは強く伝わってきますが、現状を考えると活用できています。ただ、ICTが活用されていない現状が見られるため特に「ICTも使うこと」というニュアンスなら「も」かと思います。 [第3ステージ] 他の教員の模範となる主体的な学びの授業を行う→下線部はいらなないかと思えます。主体的な学びは子供が主語だと思います。 （4）特別支援教育に関する姿について[第2・第3ステージ] 専門機関などとの、専門家などとの （5）その他②養護教諭編[着任時の姿] 「養護教諭の専門性を生かして」を追記する。</p>	<p>「【あいちを創る】の削除」、「養護教諭・栄養教諭の着任時の姿の文言の統一」、「『専門家などとの』の表記」については、修正する。 ミドルリーダーとして主体的な学びを支えることを軸に、ICTも含めた授業改善を進めるという意味で、変更なし。 「主体的な学びの授業を」を、「主体的な学びの実現に向けた授業を」とする。 「【養護教諭】着任時の姿<保健教育>」に、「養護教諭の専門性を生かして」を付け加える。</p>

4 令和3年度第1回 資質向上協議会御意見の対応状況について

資料 4

<p>教員育成指標の見直し ICT関係を踏まえて</p>	<p>愛知の教育ビジョン 2025 では、ICTに関する指標として「授業にICTを活用して指導できる教員の割合を2025年度（まで）に100%」を掲げています。 現状（令和3年3月現在）では、愛知県は64.1%（全国45位）、校種別では県立高校82.1%、県立特別支援学校60.8%、小中学校58.2%です。 こうした状況（特に特支・小中）の改善は急務で、育成指標にICT教育を明確に記載することも踏まえ、今後の研修計画にしっかりと反映していただきたいです。</p>	<p>指標に明記するとともに、研修事業に位置付けながら対応をしている。</p>
<p>教員育成指標の見直し 【教諭】の学習指導の第3ステージの改正箇所</p>	<p>……他の教員の模範となる主体的な学びの授業を行う。 ↓ 児童生徒の学習活動の目指す姿として、「主体的な学び」という用語は適切かと思いますが、上述のような使い方ですと「主体的な学び」という「学習スタイル」、あるいは、一つの「学習スキル」、のように受け取られはしないか、と感じました。</p>	<p>「主体的な学びの授業」を、「主体的な学びの実現に向けた授業」とする。</p>
<p>「あいちの教員育成」「愛知の教員育成指標」の改正案について</p>	<p>2(3)「ICT教育」にかかわる内容について <改正点>校長【財産管理】 「～予算の計画的・効率的な思考に努める。」を、「～予算の計画的・効率的な執行に努める。」に訂正する。</p>	<p>「思考」を「執行」に訂正する。</p>
<p>教員育成指標の見直し</p>	<p>学習指導の項目（第1, 第2ステージ） 赤字訂正の「協動的な学びや個別最適な学びを実践していく」の部分を、会議資料3に合わせて、「個別最適な学びや協動的な学びを実践していく」とする。</p>	<p>「協動的な学びや個別最適な学び」を、「個別最適な学びや協動的な学びを実現していく」とする</p>
<p>教員育成指標の見直し</p>	<p>保健管理の項目（第2ステージ） 「ICTをゆうこうに活用したり」の部分を、会議資料3に合わせて、「ICTを有効に活用したり」とする。</p>	<p>「有効」とする。</p>
<p>教員育成指標の見直し 「ICT教育」にかかわる内容について</p>	<p>ICT教育環境について、一人一台タブレットや学校内のICT環境は、小中学校に比べ、県立学校は遅れていると感じる。</p>	<p>県立学校のICT環境は、国のGIGAスクール構想を踏まえ、2020年度から2021年度までに、全県立学校の校内ネットワークの高速大容量化と普通教室の無線LAN整備を行い、児童生徒用タブレット端末を高等学校に48,000台、特別支援学校には1人1台整備した。また、県立学校1クラス1台となるよう大型提示装置（プロジェクタまたは大型ディスプレイ）を整備し、各校のインターネット接続回線を強化する等、ICT環境整備を進めた。今後は、国の補助事業などを注視しながら、BYOD、CYODにより高等学校の端末整備を進めるとともに、あいちクラスルーム・エバンジェリストなどにより教員のICT活用能力の向上を図っていく。</p>
<p>教員の魅力発信に関する本県の取組について</p>	<p>パンフレット（「あいちの先生まるごとガイド！」）について、教員採用試験のリーフレットと重なる部分はあるが、動画を含めてよくできているので、大学等にも広報なり、配付をしてはと思う。</p>	<p>教員の魅力発信の取組については、大学へのパンフレットの配布を含めて、検討していきたい。</p>
<p>司書教諭の採用選考方法の見直し</p>	<p>現在、加点10点となっていますが、司書教諭の資格を持つ教諭にも担任をやってもらうことを考えると、10点の加点が最良か疑問です。 司書教諭の資格を取得するために非常に多くの単位が必要です。もう少し取得しやすくなれば、仕事をしながらでも取得しようとするのではないかと思います。</p>	<p>本年度の反省等を含め、より良い採用試験になるよう努めていきたい。</p>

4 令和3年度第1回 資質向上協議会御意見の対応状況について

資料 4

障害のある教師等の活躍推進について	校務補助員について、特別支援学校の生徒が近隣の高校でインターンシップを行い、そのままこの高校へ就職に結びつけているケースを聞いている。実際にその状況を確認してもらい、よければ、情報提供などすることで、広められると思う。	校務補助員の導入が効果的であった学校の事例を校長会等において周知していきたい。
その他	教員の資質向上のためには、教員免許状取得者の教職大学院等の大学院への進学も有効ではないでしょうか。教員採用試験合格者の大学院進学に伴う優遇措置をさらに充実することも考えられてよいと思います。	本年度の反省等を含め、より良い採用試験になるよう努めていきたい。
公立高校教師の社会的立場の尊重	<p>教員としての歴や貢献度により称号を与えることを検討されてはいかがかと思えます。社会的地位に伴って教員の資質とは必然的に向上すると思われま。</p> <p>今後は教師の志願者も減っていく可能性もありこの国の根幹である教育を伝える者がいなくなつては大変です。</p> <p>面接によってわかった事は、教員を目指す半数は学生時代の恩師の影響が大きく、自分も恩師の様な生徒に寄り添った教師になりたいと思う方々が多く見受けられました。</p> <p>大変喜ばしい事です。自然増から自然減へと状況が変わっていく中で、国から称号を与えられる公務員となれば再び狭き門となります。</p> <p>警察官、自衛隊、消防士など殉職もある公務員と教師は何ら変わらず並列であると思えます。命を燃やして生徒達の将来を鑑み励んでみえる先生方を、今後も支援していただく様お願い申し上げます。</p>	本年度も愛知県教育委員会教職員表彰、若手教職員等奨励賞を実施した。愛知県教育委員会教職員表彰の過去の受賞者の中から、文部科学大臣優秀教職員表彰候補者として推薦する場合がある。このような表彰が、県内公立学校教職員の意欲を高め、資質向上につなげていきたい。
教員の給与の増額、称号手当の新設	教員の仕事も多忙を極め、心身ともに疲労困憊している様子が見受けられます。モチベーションを常に高い位置に保つため給与の改訂は必須です。愛知県としては他の予算を削減してでも教育、教員の待遇を向上させるべきと考えます。昨年よりのコロナ禍により県としても厳しい状況なのはよく分かります。しかしコロナを克服した際には好景気が来るかも知れません。今のうちから議題にあげて5年後から待遇を改める事が出来れば必然的に様々な問題が解決することと思われま。	教員の給与処遇については、本県人事委員会の報告・勧告を尊重するとの基本姿勢のもと、国・他の都道府県の動向も踏まえ、適切に対処していきたい。